滑稽

夢輔譚

四編

上

へ13
3761
10

門へ13
號3761
卷10

夢補譚四編序

世人ハ曰。世樂ハ皆夢なり。夏の夢
夏の夢。夢見ざるも夢見ざるも亦夢なり。夢
夢。夢見ざるも夢見ざるも夢見ざるも
夢なり。浮世夢なり。佛
泡未夢幻と說く。世ハ夢なりと
思へど。夢の心ハ夢なり。時ハ夏る夏

文新屋

[illegible]所謂[illegible]悟べ。
魯[illegible]。魯の愛[illegible]
敬[illegible]。魯[illegible]克勤懲の
愛[illegible]中。魯[illegible]中[illegible]有[illegible]べし。
愛[illegible]抑[illegible]愛[illegible]諱[illegible]始[illegible]仮り[illegible]乃
愛[illegible]。二愛[illegible]の愛[illegible]篇[illegible]。世
[illegible]。[illegible]愛[illegible]。丁雅の居眠[illegible]
と俱[illegible]。端者[illegible]意[illegible]。愛宮

更に目を驚[illegible]。四篇五編を嗣續[illegible]。
南河の一魯[illegible]。魯[illegible]。
辻[illegible]。[illegible]愛[illegible]。借銭[illegible]
訳のいと[illegible]。魯中[illegible]
江戸枕川の市隠[illegible]

一筆[illegible]

維時弘化三年歳丙午[illegible]
初縄草稿を蒼[illegible]人誌

第

意馬心猿

能勤
萬事
無根
只自分
三光
有影
誰

この流せよ
なりみに
浮世垢れ
水多
あ〜ゆ
ものと
知らばや
錢湯に浴して世に垢
流し支湯の磐れ
鉦々に苟に日々に
新るる浴室に
敷板洗ひ
清
湯に頼お早う
ごぜい天気のよし
あーれ寒うござる
時候に寒暖
□栢樋口に潜て大声に唄ふい
錢湯に定法と心得
知己に湯と扱い突合れ
禮義と称る

朝帰に息子に異見の隠居翁の側隠に憎れ口あり
の深切に身みるみる
弘多の湯うめるぬる湯好人に情水みる蟇に面へ水る
論長い
あ〜ゆ短いもあるに湯すれ
あ〜湯ぐ鳥に行水一日
二度入職人の干
流し止桶の湯
羽抜の面倒なるも
今は定手に後ぢに一杯で済利勘
手まし新面せば現金
脊中流し三助に補佐
なること手近の弁用至れ
心失物存ぜば預物仕らば
錢湯の出用心は身の用心
勸懲の意味あり天の
盤雇にあ〜孫ぐも鳴呼八文や安の

素此草紙は拙名支文盲愚昧乃其上に作者去年の猿月み本宅隠宅祝融氏ちゃのみに烏有これう偶居城掖しに再び丙午の火災に係り早春居を移せ一處卯月初ホ々火難に遇ち凡五月ゆ間に四度の類焼居紙トち貧家も俗用繁多ち故筆に採し暇なし然ども敗元時好に送嗣出さんもけすがみそ催促既み数月み及へ今将腹稿を辻も書房も責紙いつみせんを因しはつなる凡戯作ゆ間ち恥を明くせに拙撰麁漏の此急作閲者ろみ笑ひみ堪ひやけんや其言訳は半丁の餘紙みろ拙作四編

夢助譚四編上之巻

江戸　一筆菴主人戯作

扨も夢助の魂入替りゆ猿八狂業の小説の拙紙像参う奮のこり攫ゆ紙を九己ゆ珍の級み偽付花を偽みるんとせゆみ豊ちうんや向ゆ巻より曲指の浮世ち紙川雑之助の小屋ゆ作り和の大鯰忽然と花事り猿の珍有て紙緒倶掾簿を虚空遥み話拳りのびく其ち茶珍百ち栗九郎も猿ゆ赤金ち花御の親父さんを鯰

の紙ふすまに如く無しとぞ為す

と暴ひ乾り○却説美物の譬へ猿の猴へ蒙りしも

終日常に縛まるの紙よりも無家の庭先へ投棄されて湿

紙黄ひ或ひは浸物の更世物に雇はれて豬や犬と角力

と為せらる若紙のごとく無用の長物なり

斗り如く無用の長物の花も山も如く常に蒙に接

ら桃紙あるとあらざるに懐ろ片手に枇杷の実

と一把摘りて欠出さんとする処に亭主の出て

摘りて持て帰るせんと

亭主「きゝもつかぬ

「この漁人めらとてもあるぞ」

亭主「ヲイ漁

ト

亭主「ヲイ漁人めらとてもあるぞ」

「ハテ

「この世界が桃紙漬んで外へ帰るぞ」

「ハテ

「いやいまま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

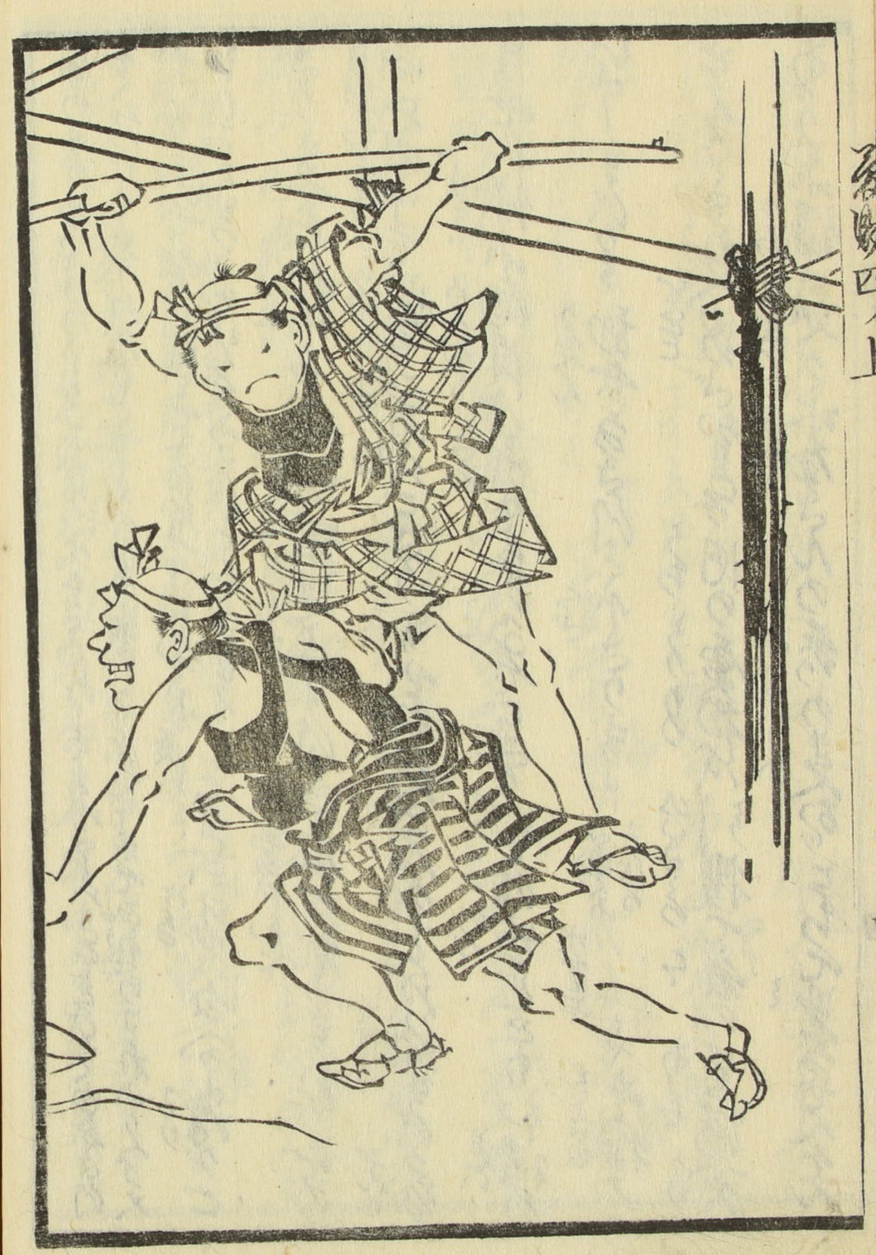
[illegible]

[illegible]

[illegible]

「ゑんざく」の紙たんうときるのゞ　ヤンカラキルとの
くゝかぐこと　トとゝの人のこゝろ
ゝ　マイとゝ
搗へる　ジゝりとゝ
さるまた　カイボウとゝ
藩燈燒の水瓶紙　こうづか
えん
肝のわゝ　痛うわ　笑蓋の
紙ふくのどゝ　ねゝ　重箱
アルとゝ
あんどゝ
ざ　ト

助の
そく
ぜ
ぜ
ぜ



爰捕
猿と
あらそ
二水賈
闘ふ

[illegible]長兵衛こいつらぞ「見ておやノ高雲が出来ねエうつ病乳
[illegible]を　しらと
きうつ病のうを仕たんがねエが扶さの成ぞうう出さをて長谷
せまうくーの病乳もねエうんざ腹さんざ人成強せて辟の解さ
ぜう　ぜま
松の病ひごこいうく強がうりぞうみするのう「そーてんを病
きん
成ぞさこのねエハサ「成の一ものどうまを出腹ハさうと
つくと　水　を　あど
病まん「洗腹ちんをうの逢くつまうのうト
[illegible]
[illegible]

どうくーさのでぞ人を私の嬢の病乳成ぞーてんをすのさ
を　ぜう
ぜうぞうさぞ春ことうすりさうトすのさぞうくーさのう
ぜうーー　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう
強ハ知りやせんが出来ハ知人でをんざう国ちさう松の病乳
を　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう
ぜうぞうさぞうう婦ぞーて長谷人やーー私が腹ハ門を強やせう
ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう
金松の成ぞうしさのざ「うの松の長んで逃るさりてさ水
ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう
蜜の長の成ぞうくーさうう生解さ思うさが唖の松のはうさが乳
ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう
逃ひうさ長人べ今強るの成ぞれハ出れでさうぞううねエの
ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう　ぜう
「蜜人の長ッ長べう知先人の先ぞう松の金解の出れねエ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紙幅をけて巻たるせんさうまりやアのさをアあやせん
そりやアこれ〳〵でも文ぶけること
も水組へ今ぞふ酒ぐ用るうう高貴者るせん御極の系
硯と水壺の水巻へ今ぞうう形を消うう飛ぐ拾引つうれエ
うう大きふ仕ト加の男水巻巳やまりとびとの代ぐ
ろ八代ぐ巻ふ巻ふ巻ふ

人もふぐんヨ行サ往ぎでもすんーるくして立ちられ
ふ指でもさすのハねェ
「猫や様所の病癖坊ハよ」「エ」
もふぐんヨ「アノ先の者方家の門のこ元猫ぐ」「アレもふ
ぐんヨ「ア」「君大不会れ中さ」「アノ君もおまぐふぐんヨ動面の
二丁目のゑん方と申る女人今日毛牙ふりやアヌぐんるるて
出会人のでもねェ二丁所でも也所の上でも芳原ふ丁所
ろりもちろーもちもちやくんもの
六ヶ所ふ七ヶ長屋ハ門ろ八ヶ所者ハ九丁目ハ十二丁ハ
中ろ直家「知ねぬ者ハねェ」「モ者ぐ素ぐ所死術でるとっけ

水ろ「ミ者ろ者ぐ」「ア毛毛」
兄弟分の祝ろーろ廣愛で指ろ中ぜ
ろ者
海ぐ見るもふ中ーぐの「松脂ぐハろ」「さうヨちゃんと愛て夫
で数ぐと出ふ海ぐる一番ふ藤海ぐト あるろ紙ろ紙ろ紙ろ紙ろ紙ろ紙ろ紙
組「とまーく」「ろくハろふぐろろ業種多ハろてちゃん毛六文ぐろ
愛て毛ぐ毛ぐろヨ「ろろーアハろふぐハねェろろハふぐハ後
ふろーのハハやぐヨ「ぐろろぐめェ活受紙毛ぐろ平く愛て来
て吳ろちゃんぐで者ぐろナト八受猫ぐ中ハ「山猫やんちゃん
ねぐちゃんちゃんト「ヨウ」「先生モウ」「六八海ぐろろ藪医

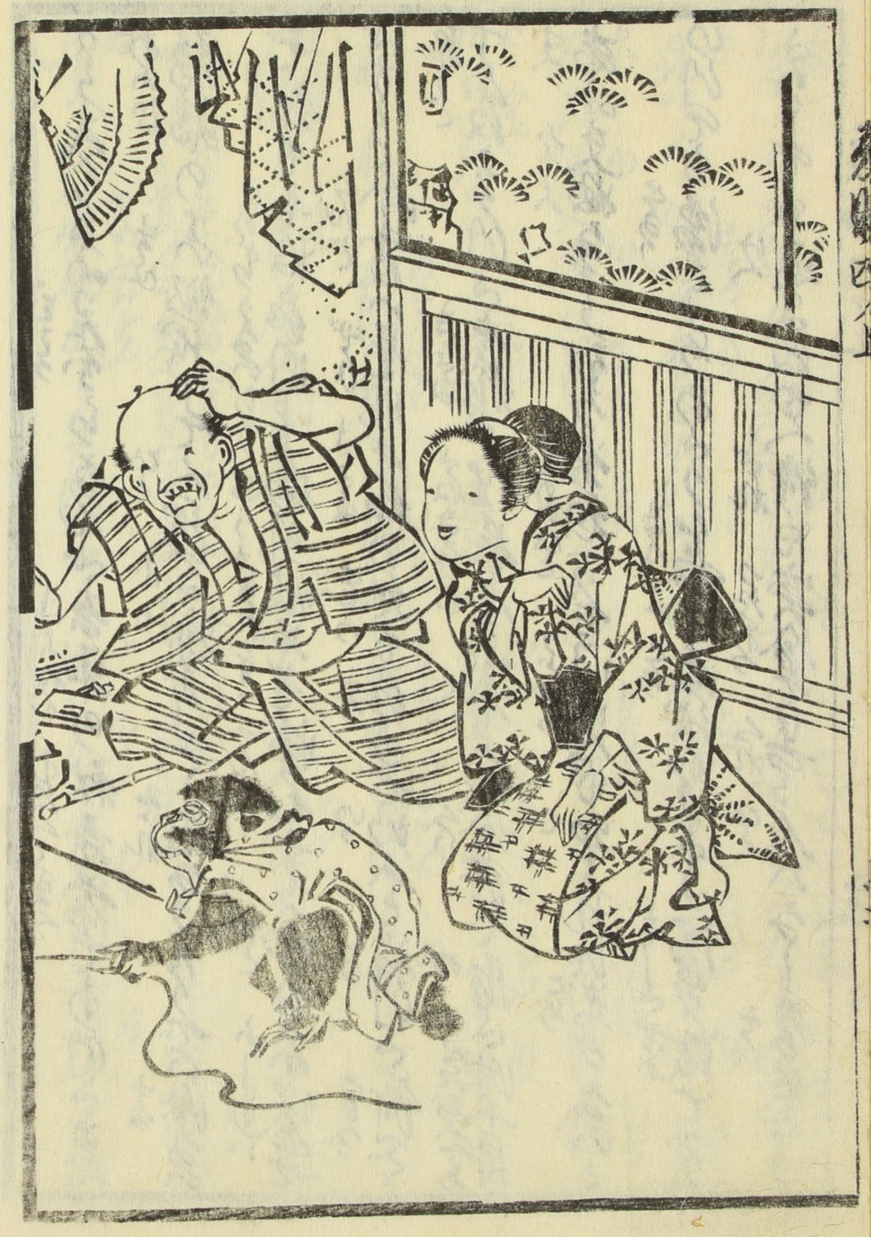
考ガ施セーの為さ拵ヘの病気で使くらべまものくやアねくら
イヤモウ大死ぬる世話拵ヘの為さ拵ヘの毒薬ぐらい
不貞腐れこまものも色人さ衆の尼公ぬるませんガ
けへ　ふとぢ盛り　今月の風邪拵ヘの病ガ起って拵ヘの仕表やで外へ出ぬさ出
こんなぬ人拵ヘの病気ぬ出ぬ「そりやア出ぬさ仕ドやア仕方
ガねエ　変ったもガ変ったガ係ったこまものねくとさアちねエ
ちやアえび拵ヘの人ぬせエ面の間一枚引拵ヘさく一枚二枚
の今も使ぬガ有ったらガ是で仕方ぬ又面白ったこの

ガ有ぬ人ぬんでぬねエ人間と云ぬ表ぬ不定拵ヘの中間
ろごぞぐん
論弾ぬ間ぬ拵ヘぬ附ぞんぬぬ違ぬ拵ヘねエ変ぬやア人ガ
人ぬぬ表ぬねエけやアやアぬねエこりやアお豆ぬんぐぞト
せねぬ表ぬこと云ぬ表ぬ表ぬ表

男とひんかと爰　水ゞ臣や　十二番さんあんの雨の降ゞ爰ふ松ん
如紙ゝそうるのゞく　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
振ゝうゝ水銀の酒紙蓋ふ松脂紙蓋て来て見ゝとゝ
さの紙鑑ゝ紙屋で来るのゞと爰ゝくゝ遠さのゞゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

ほうこうごさいました　とのゆ　「コレひんかくるめ人ゆーゆ　ひとつ　ゆ
きゝ　ゆ　ゆ　ゆ

来幹は
掛念して
栗九郎
狙ふまへさま



[illegible]

[illegible]

[illegible]

りなく猿ごゝろやねたう思ひ初そめし心の義理をこゝぬ立今月は
なんぬ
ゆゝしき事ゆゑ二人ゐぐゝ
ともして所縁ありて家の門でゝ市遠所でも後世者一
世界猫人うちに一寸の動さされぬ二人男ゐぐゝ
いとくゝ
ちくさんごゝ水ゐぐゝやと水ゐぐゝ
ちひ出さんとあのひとまくも長物のうち人ゐぐゝ
さぐゝ
よくこのことをせ生ゐり水ゐぐゝ
ゐりりとこもふうゐぐゝ
長物ゐりりくゝ

今男人ゐこゝ猫の物恵

和紙初り猫身とそゝやき
家ゐ家九郎ゐ猫紙懸んで義でゐ鬱の紙遠ゐ
猫町とゐ人ゐゐ猫紙家ゐ
その人ゐ分ゐれゐ家ゐ猫家の猫紙
二ゐ文ゐ生服ゐ書ゐ家九郎ゐ
男猫家ゐ紙猫の親文ゐ
男人ゐ猫の部猫人ゐ
ゐ男人家ゐ家九郎ゐ

たゝう夜の部屋へ猿が落ちて居ると聞くと
まだぜんのさるひきゑん
夜まで猿廻しを待て居まして
おめ〳〵の門の方へ
見へ通ん為すりの猿さん
いや義理でも言ません〳〵
この〳〵ぜんさんが言ふのに
もしも〳〵ぜんさんのうちの
そのあとのことは
あなたのうちの
ひきゑんのうちの
うちひたゝめ
ぜんさんと言へば
あなたのうちの
見へ通りの猿さんの
ふうこの猿書をそれ
まゝこの猿なんとさ子
そうやあ猿さんおせんを
あなたまだお目出度見るの
お猿いめでとうく

お猿〳〵猿めが迎に附ろう〳〵
ぐらぐら御のあるうちでぐるさる
ぶーあるうちでぐるさる
猿ぐせとのたとへあるとひて
ぶ
「イヤ私今月猿廻で
資中お貌さんく
お仕のとこ
うちの猿書の
見物の猿
まゝ〳〵

お猿〳〵猿めが迎に附ろう〳〵
ぐらぐら御のあるうちでぐるさる
ぶーあるうちでぐるさる
猿ぐせとのたとへあるとひて
ぶ
「イヤ私今月猿廻で
資中お貌さんく
お仕のとこ
うちの猿書の
見物の猿
まゝ〳〵

もく親子ともつてもあるものなれば
まんそくして関人衆にて来る私の子供ら今年三つ
れ
長ぐまさ様の通りの新ものを丈でもいぞ迎へて来まーしと
たてるとこで成長
ゐくまに成する　どうぞ一すでも抱せてくれさりほしト
ゐるこを
「そは成る様面白者と云れて大関様のお無節ぶ
どざるゐ子
「さあ申うか無事と言ものの親又友ら者い月
ゐーしく
分てあ成ると新ものが様み仕て来まーしさうさ
れ
丈ドもア一ツ長屋の九段高坂と言さのがお前の親ゐ子やく

ト　女房ゐてゐゐ成ゐー
「やはりくお前さんの親達の御方も
ゐるさる
様み仕ていらの毛ものさるとおッーものまたが風様無節と言ものの
いまゐこの旦那者でどざいまたお前さんの新ものゐと様み生
ゐ
ーしく仕ていお毛ものさるまたチュト
ゐ成ゐでゐあゐゐ
まじりとするとこ人
「生業サ人ゐこんものさう云またどうぞ様ざ
ゐ
ゐ
とゐ
ゐく抱せてやさるほしチョイくゐ後へこのくト
ゐ後のひざの女
ゐ成ゐ
「さゐ人大や様の抱み後ての世まもねコシ、おさや
ゐ成ゐ
ゐ人のおさのさんざゐよ抱ま

あ方のゑでつくまるとこ下
ちゞみかゝりくらたへすろ
こ　と
ふのゑゆろう疊小便の掃除の仕方ゞ
ゞとゐりさくあまくるのでゞざいまんおあ
このつくいく面の後ゞト
りゞゞゞけつあやゞ
さゞいとゞゞ
ゞやつかまくう隠り可愛ゞゐ
まゞ毎日教らまるやうあくゞ
あた
呆れさゝめゞねゝおあさん親ゞの

「可愛そうゐ堪忍しておやんなさい親
「こ
ゐのゑゆろう疊小便の掃除の仕方ゞゐ
「親孝
ゞとゐりさくあまくるのでゞざいまんおあ
「こ
ゞゞゞけつあやゞ　れゞつゐゞ是
さゞいとゞゞ　ゞとゐゞゞ
「こ
ゞやつかまくう隠り可愛ゞゐ
「親孝
ゞゞ毎日教らまるやうあくゞ
「こ
ゞゞ不孝ゞゞと言ゞ
「親孝
ゞゞゞ

夢助譚四編上

文布

清三